



盛岡市プレスリリース

～輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡～

令和7年6月3日
教育委員会事務局
歴史文化課

市政記者クラブ加盟社 各位

原敬記念館第68回企画展「原敬日記一日記にみる明治大正事件災害録一」を開催します

日本の近代政治史における第一級資料として現在も多くの人に読まれている「原敬日記」(岩手県指定有形文化財)。原敬が19歳から65歳まで書き続けた日記は政治に関わる記述が多くを占めますが、ロシア帝国皇太子が護衛中の巡査に襲われた大津事件(明治24年)や中津川が氾濫し盛岡市に大きな被害をもたらした水害(明治43年)など、歴史的な事件・災害といった政治以外の話題も書かれており、明治・大正の世相の一端を感じることができます。

令和7年(2025)は原が日記を書き始めて150年、そして養嗣子の貢によって『原敬日記』として刊行されてから75年という節目の年にあたります。これを機に、日記に綴られた事件・災害を関連資料と共に振り返ります。

記

【日 時】 令和7年6月14日(土)～令和7年8月17日(日)
9時00分～17時00分(最終入館16時30分)

【休 館 日】 毎週月曜日(祝休日の場合は翌平日)、臨時休館日6月24日(火)

【場 所】 原敬記念館小ホール

【入 館 料】 一般200円、小中学生50円、盛岡市内に住所を有する65歳以上の方は無料

【主 催】 原敬記念館(所管:盛岡市教育委員会)・(公財)盛岡市文化振興事業団

【イベント】

ギャラリートーク

【日時】 第1回 令和7年7月5日(土) 13時30分～14時15分
第2回 8月9日(土) 15時15分～16時00分

【場所】 原敬記念館小ホール

【講師】 佐々木 章行(原敬記念館主任学芸員)

【料金】 入館料が必要(第2回のみ同日開催の講座参加者は無料)

【定員】 各回20人(先着順)

【お申し込み・受付方法】

第1回:6月14日(土)、第2回:7月19日(土)
いずれも10時00分～電話にて受付

原敬記念館 学芸員講座「原敬が遭遇した事件と災害」

【開催日】 令和7年8月9日(土)

【時間】 13時30分～15時00分

【場所】 原敬記念館 ロビー

【内容】 原敬日記に登場する事件や災害を解説します。

【講師】 佐々木 章行(原敬記念館主任学芸員)

【料金】 無料

【定員】 20人(先着順)

【お申し込み・受付方法】

7月19日(土)10時00分～電話にて受付



「原敬日記 附絶筆メモ・本箱」(当館蔵)

19歳から暗殺される65歳までのことが書かれている日記。全83冊(未記入1冊を含む)。日本近代政治史の一級資料であり、岩手県指定有形文化財となっている。



「原敬日記」第二十一冊(当館蔵)

明治38年(1905)5月29日条。日露戦争時の日記で、日本海海戦の結果を「對馬海峡に於て我艦隊大勝利を得、露國バルチック艦隊殆んど全滅せり」と簡潔に綴っている。



写真「洪水に遭った介寿荘前で」(当館蔵)

明治43年(1910)9月、盛岡で水害が発生、市内各地が浸水した。原は「二百四五十年已來の洪水とのことにて市中は惨状を極め」と日記に綴っている。原の別邸である介寿荘も床下浸水の被害を受けた。



「原敬日記」第六十四冊(当館蔵)

大正7年(1918)8月15日条。全国各地で起こっていた米騒動の状況を綴るとともに、当時の寺内内閣の対応を批判している。

※注意

上記4点の画像は本展周知のみに使用してください。

(鮮明な画像を御要望される場合は担当者へ御連絡ください)

掲載にあたりクレジットとして収蔵場所を明記してください。

掲載紙を一部、当館保存として寄贈してください。

【問い合わせ先】

原敬記念館 担当：佐々木(ささき)

指定管理者：(公財)盛岡市文化振興事業団

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮4丁目38-25

TEL (019)636-1192

FAX (019)636-1185

一原敬記念館第68回企画展一

原敬日記

日記にみる

明治大正事件

災害録

令和7年6月14日(土)－8月17日(日)
原敬記念館小ホール 企画展示コーナー

- 開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 毎週月曜日 (祝休日の場合は翌平日)
※6月24日(火)は臨時休館
- 入館料 一般 200円 (団体 120円)
小・中学生 50円 (団体 30円)
団体入館料は30人以上の団体に適用します

主催 原敬記念館(所管:盛岡市教育委員会)
公益財団法人盛岡市文化振興事業団
共催 原敬を想う会



指定管理者:公益財団法人盛岡市文化振興事業団

原敬記念館

HARA-KEI MEMORIAL MUSEUM

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮4丁目38-25
TEL:019-636-1192 FAX:019-636-1185

原敬日記

— 日記にみる明治大正事件災害録 —

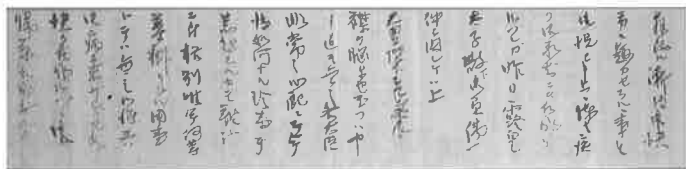
令和7年6月14日(土)～令和7年8月17日(日)

日本の近代政治史における第一級資料として現在も多くの人に読まれている「原敬日記」(岩手県指定有形文化財)。原敬が19歳から65歳まで書き続けた日記は政治に関わる記述が多くを占めますが、ロシア帝国皇太子が護衛中の巡査に襲われた大津事件や7,273人が犠牲となった濃尾地震(ともに明治24年)、中津川が氾濫し盛岡市に大きな被害をもたらした水害(明治43年)など、歴史的な事件・災害といった政治以外の出来事も日記に書き残しており、明治・大正の世相の一端を感じることができます。

令和7年(2025)は原が日記を書き始めて150年、そして養嗣子の貢によって『原敬日記』として刊行されてから75年という節目の年にあたります。これを機に、日記に綴られた事件・災害を関連資料と共に振り返ります。



写真「落橋した開運橋と渡し船」
明治43年(1910)9月、盛岡で発生した大洪水の様子を写したものの。盛岡に帰省していた原も被害にあった。



原敬宛内田康哉書簡(部分)
明治24年(1891)5月12日付。
「大津事件」対応のため、鎌倉にいた原の上京を求める書簡。事件の報告書が同封されていた。



「原敬日記」
19歳(明治8年4月14日)から暗殺される65歳(大正10年10月24日)までのことが書かれている日記。全83冊(未記入1冊を含む)。遺書に「余の日記は数十年後は宛に角なれども当分世間に出すべからず、余の遺物中此の日記は最も大切なものとして永く保存すべし」と書くほど、原敬が大切にしていた。藩閥の打倒や日本初の本格的な政党内閣を実現するまでの記録は日本近代政治史の一級資料である。岩手県指定有形文化財。

原敬 | 1856～1921 |

安政3年(1856)2月9日、岩手郡本宮村(現盛岡市本宮)に生まれる。盛岡藩校・作人館に学び上京、司法省法学校、郵便報知新聞記者等を経て外務省に入る。やがて政界へ進出、内務大臣等を経て第19代内閣総理大臣となった。日本初の本格的政党内閣を組織した「平民宰相」として支持を集めたが、大正10年(1921)11月4日、東京駅にて兇刃に倒れた。享年65歳。



◆企画展関連講座

演題／原敬が遭遇した事件と災害
講師／佐々木章行(原敬記念館主任学芸員)
日時／令和7年8月 9日(土) 13:30～15:00
料金／無料
受付／令和7年7月19日(土) 10:00～電話にて受付(先着20人)

◆担当学芸員による展示解説

日時／①令和7年7月5日(土) 13:30～14:15
② “ 8月9日(土) 15:15～16:00
料金／入館料が必要(②のみ同日開催の講座受講者は無料)
受付／①令和7年6月14日(土)、②7月19日(土)
いずれも10:00～電話にて受付(先着20人)

(公財)盛岡市文化振興事業団からのお知らせ [他館のご案内]

◎盛岡市先人記念館

第71回企画展「鈴木彦次郎 岩手の文化の育成者」
令和7年6月28日(土)～8月31日(日)

◎石川啄木記念館

※令和7年4月13日(日)より盛岡市玉山歴史民俗資料館との複合施設としてリニューアルオープン。
リニューアルオープン記念 第18回企画展
「啄木いしぶみ紀行①ふるさとに建つ碑(いしぶみ)」
令和7年5月10日(土)～8月11日(月・祝)

◎盛岡てがみ館

第74回企画展 戦後80年「最後の海軍大臣 米内光政の手紙」
令和7年6月18日(水)～10月6日(月)



交通アクセス
[バス] ①「原敬記念館前」下車 ・盛岡駅発着 盛南ループ200 ・矢巾営業所行 本宮線・羽場線
②「もといち泉公園前」下車徒歩5分 ・イオンモール盛岡南線
[タクシー] 盛岡駅より約5分